

北の志づめ

第221号

令和5年4月



第9回北海道神宮フォトコンテスト入賞作品(佐竹輝昭)



神門大注連縄

開拓の群像

最初に蝦夷地を絵で紹介した先達 秦 檻丸 はたのあわきまる 合田 一道氏

円山地域の生物

清流の守り神 ニホンザリガニ

札幌市円山動物園

動物専門員 片岡 雅人氏

開拓の群像特集

合田 一道

歴史から見えるもの⑥^⑥



二〇日も続けて歩いても、疲れを見せない
ずば抜けた体力の持ち主で、書にも画にも
秀で、地理にも詳しく、「其頃近辺評判の有
之趣」とあり、評判の高い人物だったことが
わかります。

伊勢神宮に詣でた老中の松平定信がそ

の噂を聞いてすぐに見い出し、寛政五年（一
七九三）、伊豆・相模の海岸巡見の先導役を
務めます。以後、諸国を調査し、地図の制作
に関わりました。その時に用いた名前は秦
櫟丸ではなく、村上島之允（時に島之丞と
も）でした。文筆、絵画の場合は秦櫟丸、政
務の場合は村上島之允という区別がこの時
点から設けられたのです。以下、それに従い
書き進めます。

寛政一〇年（一七九八）、櫟丸は三九歳の
時、幕府の御普請役雇に取り立てられ、近
難しくて読みづらいことと、村上島之允と
いうもう一つの名前があり、別の人物に思わ
れたなどが影響しているのかもしれません。

秦櫟丸は宝暦一〇年（一七六〇）、伊勢国
の伊勢神宮外宮の祿宜家の次男に生まれ
ました。『東韁紀行』（旧満州大連図書館
刊）の巻末に記された「秦櫟丸略伝」によると、若い頃から一日に三〇里ずつ、一〇日も
知らぬ者はない。



東京・玉林寺の境内の池

島之允が北方探検で上梓した著作は「蝦夷
島奇観」「臍臍臍図説」「鬚髮図説」「蝦
夷生計図説」「東蝦夷地名考」「松前考」「松
前箱館江差奥地図」「佐竹侯箱館七居浜操練



村上島之允（秦櫟丸）の絵「蝦夷島奇観」＝「蝦夷の風俗画」より転載

島之允は専門の絵師ではなく、どのような
流派で画技を学んだのかは不明ですが、陰影
の限りを用いた写生的な描写や、風景、群
衆の的確な表現は、記録画としても高い評価
を受けています。冒頭の「蝦夷島奇観」を見る
と、繊細な筆さばきに驚かされます。

そんな豪胆な男、村上島之允こと秦櫟丸
が江戸に戻つてほどない文化五年（一八〇八）
八月二日、仮寓で突然、流行性麻疹にかか
り何度も通行したので、島之允の名前を

り、四九歳で亡くなってしまいます。無念の最
期でした。

彼は生前、弟子を養嗣子に迎えています。
村上貞助といい、後に間宮林蔵が見聞きした
「東韁地方紀行」を筆記編集する人物です。
訪ねました。墓所の一隅に立つ小さな墓の表
面に「秦櫟丸之墓」とあり、そばの刻板に
「近藤重蔵間宮林蔵らと蝦夷地測量の事に
従う」と刻まれていました。

偶然ですが、この時、同じ秦櫟丸の墓を訪
れた人に出会つたのです。互いに名乗りり合
い、その方が北海道教育大学函館校の鷹澤
好博元教授で、秦櫟丸の描いた地図の研究
をしていると知りました。北海道から訪
れた人物が同じ人物の墓前で会えう、その巡
り合わせに不思議な思いを抱くのでした。

◆プロフィール◆

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。
北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中
からノンフィクション作品を発表。「定山坊行
方不明の謎」で北海道ノンフィクション大賞
を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書
は「日本史の現場検証」「人間登場／北の歴史
を彩る」「大君の刀」など。



秦櫟丸の墓＝東京・谷中

島之允はそこで見た風景を絵筆で描く

とともに、出会ったアイヌ民族の風俗や生
態を絵と文章で記録し、さらに自ら現地を
測量して地図を作成したのです。また在勤
中に農地の開拓や植林の仕事にも携わり、
アイヌ民族も含めて住人たちに農業を教え
ました。



秦櫟丸が眠る東京・玉林寺

二ホンザリガニ

札幌市円山動物園

動物専門員 片岡 雅人

二ホンザリガニは古くから身近な生き物として存在し、アイヌの人達からは「テクンペコルカムイ（手袋を持った神様）」とも呼ばれ多くの人に親しまれてきました。現在も北海道全域に生息し、円山地域でも生息が確認されています。しかし近年は絶滅危惧種に指定されており、身近な存在であつたはずの二ホンザリガニが希少な存在となってしまいました。平成以降に生まれた人の中には二ホンザリガニを知らない人もいるのではないか。

現在日本には3種類のザリガニが生息しています。この中で唯一の在来種であるのが二ホンザリガニです。全長は4~8cmとザリガニの中では小さく、個体差はあります。が落ち葉のような茶褐色の体色をしてい



簾舞川で捕獲されたウチダザリガニ

て、北海道は生息・繁殖するためには最適な環境だつたため、瞬く間に増殖してしまいました。ウチダザリガニは全長15cmと日本に生息するザリガニの中では最大となります。食欲も旺盛で、二ホンザリガニや北海道に生息するその他の希少な昆虫や水草などの在来種を捕食してしまうため、生態系への影響が懸念されています。また二ホンザリガニに感染すると死に至ってしまう「ザリガニペスト」と呼ばれる水カビ菌を保有しているため、二ホンザリガニにとって大きな脅威となっています。これらの事から特定外来生物にも指定されています。札幌

市内を流れる豊平川などでもウチダザリガニの生息が確認されており、二ホンザリガニへの影響が懸念されています。

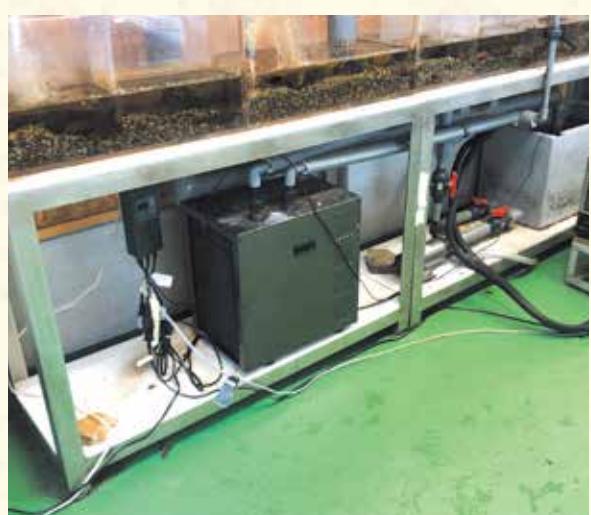
札幌市内では現在でも二ホンザリガニが生息していることは確認されていますが、ここ数年で生息が確認できなくなつてしまつた場所も出てきています。実際に円山動物園でも、敷地内を流れている沢で見られていた二ホンザリガニがある年を境に見られなくなつてしましました。こうした事態を受け、円山動物園では2009年に札幌市内、また円山地域の二ホンザリガニの保全を目的としたプロジェクトを始動させました。それと同時に非公開型の二ホンザリガニの飼育施設が建設され二ホンザリガニの飼育・研究を開始しました。施設には

きれいで冷たい水でしか生きることのできない彼らのため、水をきれいにするろ過装置やサーモセンサー付きのクーラーなどが設置されています。始動から13年経つた現在は、約50頭の二ホンザリガニの飼育をしており、日々繁殖技術の確立、生態解明に向けて研究を続けています。また動物園内

が、雑食性のため水面に落ちてきた虫などを食べます。きれいで、夏場でも20°C以上にならない冷たい水でないと生きられないためには必要です。また餌となる落ち葉を作り出す落葉広葉樹が豊富にあることも重要となります。そのため、生息分布は北海道全域と東北三県（青森、秋田、岩手）の一部の地域のみとなっています。

近年は住宅地開発やコンクリートによる三面護岸などの治水工事による生息地の破壊、さらに地球温暖化による水温上昇、乱獲、外来生物の影響を受け生息数が減少しています。外来生物の中でも特に影響が懸念されているのがウチダザリガニです。

ウチダザリガニは1920年代にアメリカから食用として道東の摩周湖へ導入され、それ以降、人の手によって全道各地に持ち運ばれました。元々北西アメリカの冷涼な地域で生息していた彼らにとつ



ニホンザリガニの飼育設備

現在は絶滅危惧種となってしまっているニホンザリガニですが、私たちの行動次第では昔のような懐かしい未来を目指すのも無理な話ではありません。ニホンザリガニや札幌の豊かな自然を後世に残していくために、自分に何ができるのか考えていくことが重要なのでしょうか。



ニホンザリガニの生息環境

社頭風景

十二月～二月

元旦

元旦社頭

本年の正月は、十二月中に一部の縁起物を除く正月授与品の授与開始や、分散参拝の呼びかけなど、様々な対策を行つたうえでの正月となりました。一方で、アルコールの提供は行わないという制限



四方拝(歳旦祭)



賑わう参道



煤払い

餅つき

12月26日

12月27日



大鏡餅

大鏡餅奉納

令和四年十二月二十七日(火) 北海道内のもち米生産地の農協などで作る北海道もち米団地農協連絡協議会とホクレン農業協同組合連合会により、五穀豊穣・無病息災を祈り北海道産のもち米「はくちょうもち」で作られた三段百二十キロの大鏡餅が奉納されました。大鏡餅は六人がかりで運び込まれ、神職により大前にお供えされました。大鏡餅の奉納は令和三年六月十一日に当宮例祭にあわせての奉納以来四度目となります。



師走の大祓並びに除夜祭

祓主大祓詞を宣る

十二月三十一日(土)午後三時、新型コロナウイルス感染症への対策の為、参拝を制限のうえ拝殿にて師走の大祓を斎行いたしました。引き続き本殿にて除夜祭を斎行いたしました。

大祓とは、人が知らず知らずのうちに犯してしまった罪や穢れを祓う神事で、その身の罪、穢れを移した紙の人形を当神宮へお持ちいただきお送りいたします。それを神事の後、川へと流すことで祓い清めます。当宮では六月と十二月の年二回斎行しております。

はありましたが、露店商の出店を許可するなど、前年までよりもやや規制を緩和いたしました。その影響もあってか、三が日は参拝者数が約三十七万人と新型コロナウイルス感染症の流行が始まつて以来最も多い人数となりました。徐々に境内の活気が戻つてきているのを感じながら、大神様の御加護のもと、感染者も出すことなく無事終えることができました。

午前七時には参列を制限させていただけいたうえで歳旦祭を厳粛に斎行し、難波神楽「四方拝」を奉奏いたしました。

元始祭

元始祭は年の始めにあたり、一月三日に宮中において皇位の元始を祝う宮中祭祀で、天皇陛下の御親祭により奉仕される一年で最初の大祭となります。かつてこの日は国の祝祭日とされました。現在でもこの宮中祭祀が執り行われるのにあわせて全国の神社において、皇位の無窮を祈り祭典を御奉仕しています。当宮におきましても、当日の午前九時から、新型コロ

ナウイルス感染症への対策を行つたうえで、厳粛に祭典を斎行いたしました。祭典では巫女が破魔矢を手に難波神樂を奉奏しました。



破魔矢を手に舞う巫女

節分祭

二月三日（金）午後三時より節分祭を祈請講役員の参列のもと斎行いたしました。祭典では宮司による金幣の儀の後、巫女が剣をもつて厄を切る難波神樂「剣の舞」を奉奏いたしました。例年執り行つて

金幣の儀



おりました、祭典終了後の神門内特設舞台にて行う豆打ち神事は、新型コロナウイルス感染症への対策として昨年に続き本年も中止となりました。豆打ち神事の中止は本年で三回目となります。



古神札焼納祭

一月十四日（土）午前十時、境内弓場にて古神札焼納祭を斎行いたしました。古神札焼納祭とは、左義長、どんと焼きとも呼ばれる神事です。斎場には皆様にお納めいただいた、お札やお守り、注連縄や門松などの正月飾りが積まれ、お清めの後、御神火をもつて焼納されました。当日は古いお札やお守りなどを納めに来られた



退下

紀元祭

我が国では、奈良の地は橿原の宮で初代天皇であらせられる神武天皇が、天皇の位にお登りになられた一月十一日の日を建国の日と定めています。北海道神宮では当日午前十時よりその御聖業を景仰する紀元祭を斎行いたしました。祭典の中では、宮司以下祭員参列者一同心のかで「紀元節」を唱和いたしました。祭典終了後、一昨年より行われております山田起雲氏による記念揮毫が、本年も参集殿にて行われました。

献饌



方々が、高らかと上がる炎を見守つていました。



高らかと上がる炎



献饌

祈年祭

二月十七日(金)午前十時、祈年祭を斎行いたしました。祈年祭の「年」は古来より稻を表す言葉で、「とし」とも読みます。この「とし」を祈る祈年祭は「としごいのまつり」とも呼ばれ、豊穣を祈る神事として神社では特に大切な神事とされています。当日は新型コロナウイルス感染症への対策を行つたうえでの斎行とはなりましたが、海の幸山の幸を神前に供え、神楽「悠久の舞」をして厳粛に祭典を奉仕いたしました。



悠久の舞

北海道神宮頓宮

正月

頓宮では年末の大祓、新年の歳旦祭などの祭事につきまして、参列を制限したうえでの斎行となりました。参拝者数に関しましては、昨年まで新型コロナウイルス感染症の影響により少なくなつており、やや寂しさを感じる正月となつておりましたが、本年は状況の改善によるものかコロナ禍以前に匹敵するほどのご参拝をいただくことができました。また、海外からのご参拝も多く見受けられ、以前の賑わいを取り戻してきたように感じられました。

元旦の社頭



大祓



天長祭並びに 第十一回新成人寒中禊会

天皇陛下には畏くも六十三歳の御誕辰を迎られ、北海道神宮では、二月二十三日(木)午前十時より天皇陛下のご長寿と皇室の繁栄を祈る天長祭を斎行いたしました。祭典では「浦安の舞」を奉奏し、天長



祝詞奏上

雛人形展

二月八日より三月十二日まで祈祷者控殿において、札幌在住の人形作家である山田祐嗣氏所蔵の明治から昭和までのひな人形や、土人形、押絵雛、当別町の甲斐の会作製の吊るし雛の展示を行いました。



節を流し心の中で唱和いたしました。
その後、正午より第十一回新成人寒中禊鍊成会が行われ、厳しい寒さの中、六名の新成人が参加して水を被り身を清めました。



水を被る新成人

